

博物館ノート



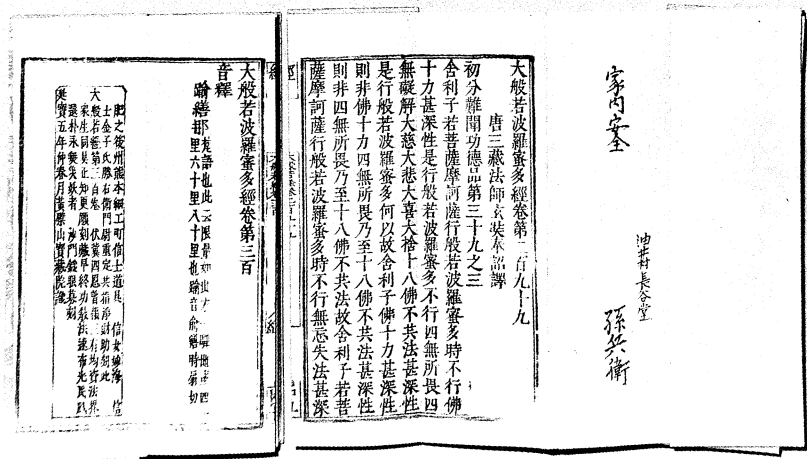
『旧修験徳善院蔵 大般若経』

この大般若経六〇〇巻は、本山派の修験で
大善院となつていた安達町米沢の二階堂家
に伝えられたものである。同家にはこの大般若
経の他にも修験であつた当時の資料が数多
く伝えられている。



大般若経はいうまでもなく仏教聖典を総集
したものであるが、この大般若経は、黄檗版
あるいは鉄眼版と呼ばれているもので、江戸
時代初期の天和一年に黄檗宗の僧鉄眼道光に
よつて完成された木版印刷の大般若経であ
る。鉄眼はこの大般若経を完成させる資金を
得るため、広く庶民の間に募財活動を行った。
こうして得られた資金によつて彫られた版木
であるため、各経巻の巻末にはその版木を彫
るための寄進に応じた人達の名前が記されて
いる。

また、徳善院がこの大般若経を入手した際
には、やはり信者の人々の寄進を受けていた。
それは各経巻の巻頭に墨書きされた「家内安
全 油井村長谷堂 孫兵衛」などの文字から
わかるのである。この寄進に応じた人々は、
一人あるいは二人で一卷分の寄進をし、それ



ぞれの願いを込めている。その願いは家内安
全の他にも養蚕地帯らしく蚕安全なども見ら
れる。さらに記された村名からは、徳善院の
信者の範囲（霞）を推測することができるの
である。